生産体制・技術確立支援
取組概要
（R3～R4）

『シアナミドを利用した開花促進と短果枝主体栽培によるナシ「瑞月」の安定生産』 ＝愛知県＝

【全体概要】

近年は冬期の気温が高く推移する傾向にあり、暖地の「幸水」を中心に花芽の枯死が発生し、愛知県においても問題となっている。「瑞月」は「幸水」と比較して収穫時期がやや遅いが、花芽の枯死が起こりにくい短果枝の維持が容易で食味も優れる。そのため、今後、発芽不良の問題が深刻化した場合には「幸水」との併用により危険分散を図ることができる。

そこで、本事業では、「瑞月」の短果枝利用栽培技術及びシアナミド剤散布による発芽促進技術について現地適応性を確認する。

新品種・新技術等の概要

瑞月の短果枝利用栽培

「瑞月」の短果枝花芽の維持が容易な性質を活かして、短果枝を利用した栽培方法を現地実証する。

表　短果枝の花芽率

	花芽率
瑞月	45%
幸水	33%

シアナミド剤の利用による瑞月の発芽促進

シアナミド剤の休眠期散布による発芽率の向上と開花期の前進について、「瑞月」への適応を確認する。

写真　瑞月短果枝の開花状況

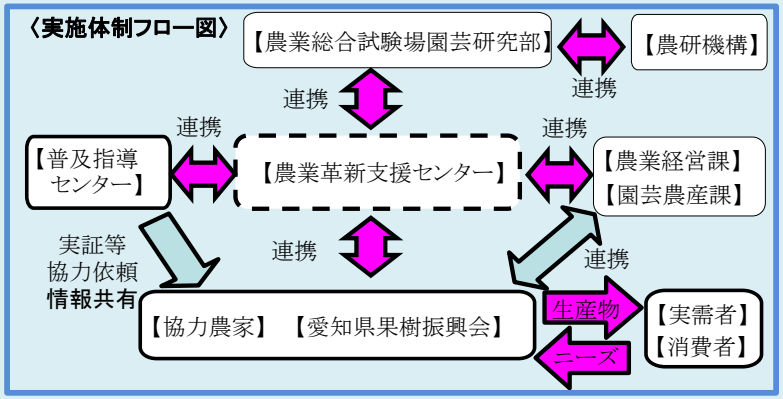
主な取組内容

○県内4ヵ所の実証ほにおける短果枝利用栽培の検証
→「瑞月」の短果枝花芽率は幸水より高かった。

○実証ほにおけるシアナミド剤の開花促進効果の検証
→開花が3日程度促進された。

○実証ほの試験結果について検討会議を開催した。

実施体制図



農業革新支援センターが中心となり、農業総合試験場と協力し、生産者・実需者・消費者との連携を図りながら事業の調整・進行管理を行う。

課題と今後の対応

○実証ほにおける栽培試験　→　R4年度継続実施中
- シアナミド剤散布による収穫時期の変化
- 短果枝利用栽培の現地適応性の確認

○短果枝の維持年限の確認
- 今後、短果枝利用栽培を普及するためには、短果枝の更新サイクルについて、現地の状況を確認しながらマニュアル化する必要がある。

○得られた知見はマニュアル化し、普及推進に活用する